

社会科学習指導案

日時 平成21年11月19日(木) 5校時
学級 1年A組(男子14名、女子14名、計28名)
場所 1年A組教室
指導者 教諭 三浦 誠

1 単元名 第4章 第1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一

2 単元について

本単元は、学習指導要領の歴史的分野、2 内容(4)「近世の日本」のア、ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつけられていったことを理解させる。」を受けて位置づけたものである。

なお内容の取り扱いについては、「ヨーロッパ人來航の背景」については新航路の開拓を中心に扱い、宗教改革についても触れること、「織田・豊臣による統一事業」については検地・刀狩などの政策を取り扱うようにすること、「対外関係」としては東南アジアとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などを取り上げて指導することが求められている。

15世紀から16世紀のヨーロッパ人による新大陸の発見と新航路の開拓及び宗教改革はやがてヨーロッパ諸国によるアフリカや南北アメリカ大陸の植民地化へつながっていった。これらの国は世界貿易を展開し、16世紀半ば、ヨーロッパ人によって鉄砲とキリスト教が日本へ伝来することになる。

当時、日本は戦国時代のまっただ中であり、鉄砲の伝来はそれまでの戦い方を一変させた。この鉄砲の威力に最も注目したのが尾張の織田信長であり、天下布武を掲げ、全国統一へ歩み出した。信長はその後本能寺の変で斃れるが、あとを継いだ豊臣秀吉によって全国統一が達成されることになる。この時代の大きな変化は、貴族や寺院といった旧勢力が急速に力を失い、後には江戸時代に完成する武家を頂点とした新しい世の中の仕組みの基礎ができあがったことである。すなわち、信長による仏教勢力への圧迫や関所の撤廃、楽市・楽座の実施、秀吉による検地と刀狩りなどの諸政策がそれである。

一方、文化の面では、戦国時代を生き抜いた大名や急速に成長した豪商の気風、経済力を背景に、豪壮・華麗な桃山文化が生まれ出されていった。また南蛮貿易により天文学や医学、航海術、活版印刷術などの新しい学問や技術、南蛮風の衣服やローマ字などが伝えられ、桃山文化に大きな影響を与えていった。この時代は封建社会の発展にとってきわめて重要な時期であり、江戸時代の徳川幕府による近代封建制、幕藩体制への確立へと移行する転換期として歴史上重要な意義を持っている。

3 生徒の実態

1年A組はとてもしっかりとした学級である。挨拶がしっかりでき、聞く態度もとても良く、指示したことに素早く取り組める。

小学校では、第6学年で鉄砲とキリスト教の伝来、信長と秀吉の政治について学習している。信長については、長篠の戦いや比叡山延暦寺の焼き討ち、安土城、本能寺の変を中心に、秀吉については、検地と刀狩り、全国統一、朝鮮侵略を中心に学習している。しかし、楽市・楽座、桃山文化、南蛮文化についてはその内容についての記述はあるが、語句としては扱っていない。したがって中学校の学習では、新出の語句を押さえることは勿論、鉄砲とキリスト教伝来の背景や、信長と秀吉の政策により旧勢力の力が衰退し、武士を頂点とする新しい社会の仕組みの基礎が成立したこと、桃山文化成立の背景について、生徒に考えさせながら指導する必要がある。

なお新学習指導要領では、各時代の特色や歴史的事象の背景を生徒が自分の言葉で表現できるように「確かな理解と定着を図る」ことを求めているが、中学校1年生という発達段階でもあり、その力は十分ではない。学習したことを関連づけ、歴史的事象の意義や背景を思考させたり発表させたりしながら、確かな定着と理解を図っていききたい。

4 単元の目標と単元の評価規準

(1) 単元の目標

- ・ヨーロッパ人の來航の背景を、新航路の開拓を中心に理解させ、鉄砲とキリスト教の伝来が日本に与えた影響を考えさせる。
- ・織田信長と豊臣秀吉による統一事業を理解させ、新しく生まれ出された近世社会の特色を考えさせる。
- ・東南アジアとの貿易、キリスト教への対応、朝鮮侵略を通して、織田・豊臣の時代の対外関係のあらましを理解させる。
- ・桃山文化の文化財に関心を持たせ、その特色を理解させる。また、南蛮文化の影響、武将や豪商の生活との関連に気づかせる。

(2) 単元の評価規準

単元名	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
第4章 第1節 ヨーロッパ人の来航、織田・豊臣の政治や社会の変革の歴史	ヨーロッパ人の来航、織田・豊臣の政治や社会の変革の歴史に興味を持ち、意欲的に追究している。	ヨーロッパ文化の来及が日本社会に及ぼした影響について考察している。	ヨーロッパ人の来航、織田・豊臣の政治や社会の変革の歴史に関する資料を積極的に活用し、その内容を整理し、説明している。	ヨーロッパ人の来航、織田・豊臣の政治や社会の変革の歴史について理解し、その知識を身に付けている。

5 指導計画と評価規準（6時間計画）

学習内容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
ヨーロッパ人の進出	新航路の開拓の目的、ヨーロッパ人の世界への影響に興味を持ち、意欲的に追究している。			新航路の開拓の目的、宗教改革の概略、及びヨーロッパ人の世界への影響を理解し、その知識を身に付けている。
ヨーロッパ人の出会い		鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易が日本社会に及ぼした影響について考察している。	「南蛮人渡来図屏風」に描かれたものからその様子を読み取り、南蛮貿易やキリスト教の広がりについて理解している。	
織田・豊臣の統一				信長と秀吉による統一の過程やその政策のあらましを理解し、その知識を身に付けている。
分朝と朝鮮侵略	豊臣秀吉の朝鮮侵略について意欲的に追究している。	分朝の政策が朝鮮に及ぼした影響について考察している。		
桃山文化		桃山文化の特色を、政治・経済・文化の観点から考察している。	桃山文化の特色が、豪商・武士の生活に及ぼした影響について考察している。	ヨーロッパ人の来航によって生まれた新しい文化について理解し、その知識を身に付けている。
時代大観（本時）		時代の特色を、政治・経済・文化の観点から考察している。		

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 時代の特色を、政治の展開、農民の暮らし、外国との関係、文化の特色について、他の時代との共通点や相違点に着目し、史料をもとに説明したり記述することができる。

(2) 本時における具体の評価規準

	具体の評価規準		C (支援が必要な生徒)への具体的な手だて	評価方法
	B 概ね満足できる	A 十分に満足できる		
社会的な思考・判断	時代の特色を、政治の展開、農民の暮らし、外国との関係、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、グループの中で自分の意見を述べている。	時代の特色を、政治の展開、農民の暮らし、外国との関係、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、グループの中で、歴史的事象の意義や背景に触れながら自分の意見を述べている。	司会者に、手順に沿って進行するようにアドバイスする。 発表の手順に沿って意見を述べるようにアドバイスする。	机間巡視 各グループの作品

(3) 本時について

本時は新学習指導要領解説、歴史的分野の内容の取扱いのウ「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して各時代の特色をとらえさせる」を具現化したもので、特設の指導である。実施にあたっては指導計画を練り直し、本時の指導時間を設けた。

「時代を大観し表現する活動」とは、学習した内容の比較や関連づけ、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動である。これによって思考力・判断力・表現力等を養うとともに、基礎的・基本的事項の確かな理解と定着を図ることが求められている。

本校では、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習活動を通して、「基礎・基本を身につけ、意欲的に学ぶ生徒の育成」を研究目標に掲げている。本時における基礎的・基本的知識及び技能とは安土・桃山時代の学習を通して学んだ事柄であり、信長と秀吉の代表的政策とその目的や意義、それらの政策による人々の生活の変化、桃山文化の代表建築や作品、芸能及びその作者、南蛮文化の代表例とその影響、朝鮮出兵を中心とした外交であり、さらに前時代との共通点や相違点である。そしてこれらを活用する学習活動とは、学習事項をもとに安土・桃山時代の大まかな特色は何であるか生徒同士が意見交換して思考力・判断力を養い、史料や図版を用いて特色をまとめ、自分の言葉で表現する活動である。指導にあたっては次のような工夫を行った。

- ・ 時代を大観する学習を年間指導計画に位置づけた。鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代で行うこととした。
- ・ 単元の学習の導入段階で、学習のまとめとしてグループごとに時代の特色を大まかにとらえ、当番のグループが発表することとした。
- ・ まとめる時の視点は、時代を代表する人物とその政治の内容や意義、農民の暮らし、外国との関係、文化の特色であることを伝えた。これは、生徒にこれらの視点を意識して学習させるためである。
- ・ 事前に全員に付箋を渡し、宿題を出した。各自が4つの視点について、文章で(代表的文化作品と作者については箇条書きで)まとめてくるように指示した。
- ・ グループは4～5人を1単位とし、構成は任意とした。
- ・ 意見交換が円滑に行われるように、司会の手順、グループ内での発表の仕方を例示した。
- ・ 各グループごとに、時代の特色をB4版1枚にまとめさせた。生徒が使いそうな図版や史料は事前に準備した。
- ・ 代表グループの発表後、各グループから講評を述べる時間を設けた。

なお、本単元の学習にはヨーロッパ人による新航路の開拓と宗教改革及びそれらによる影響が含まれる。しかし新学習指導要領では、歴史学習の中心は「わが国の歴史の大きな流れ」の理解であるとしていることから、まとめる際の視点には位置づけない。本時の最後に教師からの講評で付け加えたい。

(4) 本時の展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
導 入 (2)	1 学習課題の把握 (学習課題を把握して、自分の役割を自覚し、意欲を持つ。)	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート用紙は事前に配布しておく。 ・作業時間確保のため、予告通り、本時は安土・桃山時代の特色を大まかにとらえ、各グループでレポートを作成し、発表してもらうことだけを告げて、教師から学習課題を提示。すぐに作業に入らせる。 	
展 開 (45)	<p style="text-align: center;">安土・桃山時代の大まかな特色は何か。</p> <p>2 学習課題の追究 (時代の特色を大まかにつかみ、レポートを作成する。)</p> <p>[司会者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会の手順に従って進行する。 ・まとめる際の4つ視点の順にグループの仲間に指名する。 ・全員の意見をまとめてレポートに書く内容を決定する。 <p>[発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたことを書いたメモを見ながら、自分の意見を発表する。 <p>[発表グループ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の役割分担、発表内容の検討を行う。 <p>【活用ポイント】</p> <p>学習事項をもとに大まかな特色についてグループ内で意見交換する。(思考・判断)</p> <p>3 課題の解決 (発表グループは発表する。他のグループの代表者は講評を述べる。)</p> <p>【活用ポイント】</p> <p>図版、史料を用いて自分の言葉で時代の特色を表現する。(資料活用の技能・表現)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図版や史料を準備してあることを告げる。 ・まとめる作業の終了時間を告げる。(終了は14:30) ・机間巡視して、司会者が手順に従って進行していることを確認する。 ・使う史料や書く内容を決めながら進めているか確認する。 ・手が空いている生徒がいる場合は、できそうなことを指示する。 ・グループでまとめた意見に、目的や意義、前の時代との共通点や相違点が含まれていないときは指摘する。 ・意見交換の様子を見まわりながら、評価を行う。 ・発表グループの役割分担、発表内容を確認し、誤りがあれば指摘する。 ・発表グループの原稿をスクリーンに投影する。 ・発表グループに、黒板前に整列し、発表を始めるよう指示する。 ・発表終了後、他のグループから講評を発表させる。 	<p>時代の特色を、政治の展開、農民の暮らし、外国との関係、文化の特色などの他の時代との共通点や相違点に着目して、グループの中で自分の意見を述べているか。(思考・判断)</p>
終 末 (3)	<p>4 本時のまとめ (教師による講評を聞きながら、本時の学習内容を振り返る。)</p> <p>5 次時の内容の把握 (次時の学習内容を把握する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート、発表内容、発表の仕方について、教師から講評を行う。 ・新航路の開拓や宗教改革による世界の歴史の動きの中で鉄砲とキリスト教が日本に伝来したことを確認する。 ・次時の内容を告げる ・グループで作成したレポートを回収。(終了後、人数分コピーして配布する。) 	

「基礎・基本を身につけ、意欲的に学ぶ生徒の育成」 ～基礎的・基本的な知識及び技能を活用する活動を通して～ (活用を意識した授業の一考察)

花巻市立西南中学校 教諭 三浦 誠

1 今年度の取り組み

(1) 主題設定の理由

本校生徒の課題は思考力・判断力・表現力が弱いことである。また、新学習指導要領の完全実施は平成24年度であるが、来年度、中学校社会科では1年生が移行期に入る。本校生徒の課題を解決したい、今年度のうちに移行に備えたいという思いから指導法の改善に取り組むことにした。

2 指導の具体策 (新学習指導要領解説の「時代を大観する学習」をどう具現化するか。)

新学習指導要領解説、歴史的分野の内容の取扱いのウには、「学習した内容を活用して、その時代を大観し表現する活動を通して各時代の特色をとらえさせる」とある。「時代を大観し表現する活動」とは、学習した内容の比較や関連づけ、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動である。これによって思考力・判断力・表現力等を養うとともに、基礎的・基本的事項の確かな理解と定着を図ることが求められている。

(1) 時代区分

「古代・中世・近世・近代・・・」といった西洋の時代区分か

「縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・・・」といった日本の時代区分か

- ・西洋の時代区分では、生徒にとって、時代の特徴を捉えにくいのではないか。
- ・西洋の時代区分で「時代を大観する学習」を実施するには、1回あたり2～3時間必要と予想されるが、限られた年間時数のなかで多くの時数は確保できない。
- ・日本の時代区分の方が、生徒にとっては時代の特徴を捉えやすいのではないか。
- ・日本の時代区分ごとであれば、1回あたり1時間の確保で実施出来そう。

(2) 言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を育み、基礎的・基本的な知識及び技能の確かな定着を図る活動は・・・

- ・ワークショップがよさそう。しかし時数の確保ができない。
- ・リーフレットはどうか。1時間内に作成、発表できそう。

(3) まとめる視点は何か

- ・新学習指導要領解説にある、4つの視点
「政治」、「社会の様子(人々の暮らし)」、「産業の発達」、「文化」

(4) 生徒にイメージを持たせる。

- ・平安時代のリーフレットを作成。

3 指導の実際

1回目 学習課題「鎌倉時代の特色は何か。」

[鎌倉時代の学習に入る前]

次の内容を告げた。

- ・教科書の内容を一通り学習した後、鎌倉時代のまとめの学習を行うこと。
- ・視点は4つ。
- ・グループ毎にリーフレットを作成すること。(平安時代を例に、手本を示した。)
- ・グループは、任意の6つのグループ。 ・1つの班が、代表して発表。

[時代を大観する学習の前の時間の最後]

- ・リーフレットの原版、使う史料を提示
- ・4色の付箋を配布。付箋にまとめる内容を指示、宿題とする。
白(政治)、水色(人々の暮らし)、緑(産業の発達)、黄色(文化)

[時代を大観する学習]

- ・グループ内で付箋を見せ合って、意見交換した後、まとめ作業にはいることを指示。
- ・リーフレットを4分割することを指示。
- ・リーフレットを1時間で作成できたグループは、なし。

*反省点

- ・簡条書きでまとめてきた生徒が多く、リーフレットに文章で書けない。
- ・まとめを書く用紙としては付箋が小さすぎて、詳しく書けない。
- ・はさみ、のりを忘れる生徒が多く、作業がはかどらない。
- ・グループのほとんどの生徒が宿題を忘れ、まとめができないグループも1つあった。
- ・4つの視点に分けて書くことができない生徒もいた。

昼休み・放課後を使って完成するよう指示。4グループが提出したところで発表会。(新型インフルエンザで生徒が欠席したグループは、発表会后、提出。)

2回目 学習課題「室町時代の特色は何か。」

〔室町時代の学習に入る前〕

次の内容を告げた。

- ・授業を、4つの視点に分けて行うこと。
- ・教科書の内容を一通り学習した後、室町時代のまとめの学習を行うこと。
- ・まとめ方は鎌倉時代と同様。

リーフレットの原版と史料を印刷したプリントをそれぞれ配布。
(時代を大観する学習をイメージさせるため)

〔時代を大観する学習の前の時間の最後〕

- ・4色の用紙(B6版)を配布。まとめる内容、文章でまとめることを指示、宿題とする。

白(政治)、水色(人々の暮らし)、緑(産業の発達)、黄色(文化)

- ・宿題を必ずやってくることを、道具を忘れないことを指示。

〔時代を大観する学習〕

- ・挨拶の後、すぐに作業に入る。
- ・すべてのグループが、グループ内で用紙を見せ合って意見交換した後、すぐにまとめ作業にはいる。
- ・手際よくリーフレットを4分割、使う史料を切り取り始める
- ・リーフレットを1時間で作成できたグループは、1つ。その日の放課後までに3つのグループが提出。残りの2グループも2日後に提出。発表会を後日実施。

*反省点

- ・机間巡視をしながら、宿題にかけた時間を聞いたところ、前日に3時間かかった生徒がいた。4色の用紙を配布するのが遅いことに気づく。
- ・教師が、リーフレットに書いて欲しい内容だと思っけていても、書いていないグループがあった。ポイントの押さえ方が弱かったことに気づく。

3回目 学習課題「安土・桃山時代の特色は何か。」

〔安土・桃山時代の学習に入る前〕

- ・あらかじめ4時間分の学習プリントを作成(指導内容を教師がおさえるため)
- ・4色の用紙も準備。
- ・教科書の内容を一通り学習した後、安土・桃山時代のまとめの学習を行うことを告げる。
- ・リーフレットの原版と史料を印刷したプリントをそれぞれ配布。
(時代を大観する学習をイメージさせるため)
- ・4色の用紙を配布。白(政治)、水色(外交)、緑(農民の暮らし)、黄色(文化)
- ・1時間毎に、その日のうちに文章でまとめるよう指示。

〔時代を大観する学習の前の時間の最後〕

- ・宿題を必ずやってくることを、道具を忘れないことを指示。

〔時代を大観する学習〕

展開案(次項)を参照

4 成果と課題

(1) 成果

- ・1回目の失敗を生かし、生徒がきちんとまとめてくるようになったこと。道具の準備も出来るようになったこと。
- ・回を重ねるうちに、作業が早くなったこと。まとめ方も上手になったこと。
- ・リーフレットを作る時間だけでなく、教科書の内容を学習する時間も生徒が真剣に学習に取り組むようになったこと。特に安土・桃山時代の学習に入ってから、授業の終わりごろになると、学習プリントが終わった生徒のなかに、まとめ作業に取り組み始める生徒も出てきている。
- ・目標を持たせて指導すれば、生徒は学習に真剣に取り組む、まとめ作業にも生き生きと取り組むことが分かったこと。
- ・時代を大観する学習を実施するためには、教師が、単元の指導の前に、指導すべき内容をきちんと押さえおかなければいけないことが分かったこと。
- ・授業に活かせる家庭学習課題の提示の仕方の、一例になるのではないかな。

(2) 課題

- ・文科省の考える時代の概念は、西洋的な時代区分だということが先日分かった。時代の範囲が広いので、来年度、どのようにまとめさせたらよいか。年間時数に変更はない中で(実際は歴史は減か・・・)、1回あたり何時間確保すればよいか。
- ・生徒が、「より詳しくまとめるのがよい」を勘違いしてしまったこと。「時代の特色を大まかに捉える」とは、生徒が自分の言葉で特色を表現できるよう、十分な議論の場を設けること。



平安時代

七 九 四	七 九 七	八 〇 六	八 九 四	九 〇 五	一 〇 〇 七頃	一 〇 一 六頃	一 〇 一 七頃	一 〇 五 三	一 〇 八 六	一 一 五 六	一 一 五 九	一 一 六 七	一 一 八 五	
桓 武 天 皇 が 平 安 京 に 都 を 移 す	坂 上 田 村 麻 呂 が 征 夷 大 将 軍	最 澄 と 空 海 が 新 し い 宗 派 を え る	遣 唐 使 を 停 止 す る	古 今 和 歌 集 が つ く ら れ る	清 少 納 言 ・ 源 氏 枕 草 子	紫 式 部 ・ 源 氏 物 語	藤 原 道 長 が 摂 政 に な る	藤 原 頼 通 が 摂 政 に な る	平 等 院 鳳 凰 堂 が で き る	白 河 上 皇 が 院 政 を 始 め る	保 元 の 乱	平 治 の 乱	平 清 盛 が 太 政 大 臣 に な る	平 氏 が 壇 の 浦 で 滅 亡 す る
国風文化が栄える														

1年 組 番 名前 _____

平安時代の特色は何か

平安時代の政治家、政治の内容 政治の目的、意義

桓武天皇 かんむ 794年、京都に平安京をつくった。坂上田村麻呂に命じて東北地方の蝦夷を征伐した。



藤原道長

平安時代の中ごろの人物。娘を天皇の后にし、その子を天皇にして勢力を広げた。



天皇が幼いときは摂政、成長すると関白という職について政治を行った。**(摂関政治)** たくさんののんの莊園を持っていた。

平 清盛

平安時代のおわりごろの人物。一代で平家の全盛期をつくった。みずから太政大臣となり、一門の人を高い役職につけた。娘を天皇の后にするなど、藤原氏の政治と似た政治を行った。清盛の死後、平氏は源頼朝、義経らによって壇ノ浦（山口県）でほろんだ。

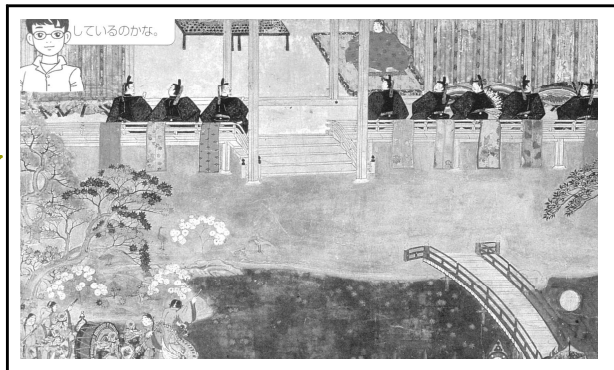


～奈良時代との違い～

- ・奈良時代は聖武天皇に代表されるように、天皇中心の政治が行われていたが、平安時代は中期に貴族の藤原氏、後期に武士の平氏による政治が行われるようになった。
- ・桓武天皇のころ、東北地方の蝦夷が征伐され、東北地方も朝廷に支配されるようになった。

貴族の暮らし

平安時代の貴族の館。**寝殿造**といわれるつくり。庭に池や山がある。



平安時代の貴族の服装。男性は直衣と呼ばれる服を着て、頭に烏帽子をかぶる。女性は十二単。夏は4, 5枚、冬は20枚ぐらい重ねて着た。



平安時代の文化

国風文化

平安時代中ごろの、貴族中心の文化。奈良時代の天平文化との違いは、唐の影響を受けない、日本風の文化だということ。894年に菅原道真の進言により遣唐使を停止したことが原因。



↑ 源氏物語絵巻 源氏物語と、日本風の絵（大和絵）をくみあわせた絵巻物

〔国風文化の代表例〕

かな文字 漢字を変形してつくった文字。

古今和歌集 平安時代の和歌集

源氏物語 作者は紫式部

枕草子 作者は清少納言

浄土信仰 念仏を唱えて阿弥陀仏にすがれば、死後、極楽浄土へ生まれ変わるといふ教え。

平等院鳳凰堂

藤原道長の子ども頼通がつくらせた阿弥陀堂。



【最澄と空海】 平安時代の初めに新しい仏教の宗派を唐から伝えた。

最澄

天台宗
比叡山
延暦寺



空海

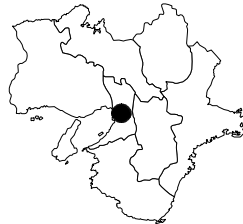
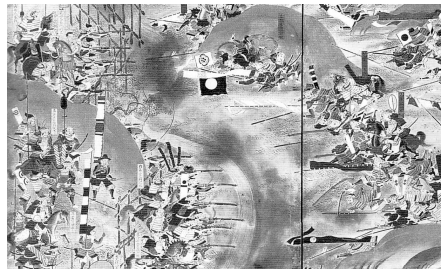
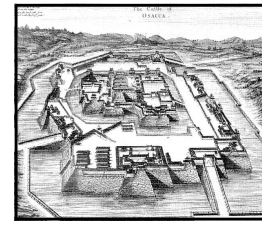
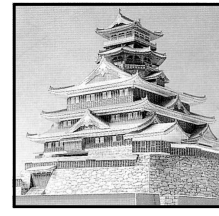
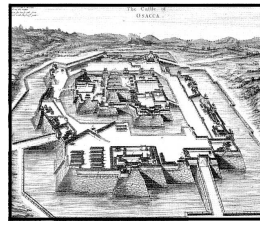
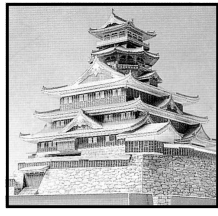
真言宗
高野山
金剛峯寺



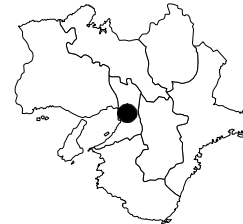
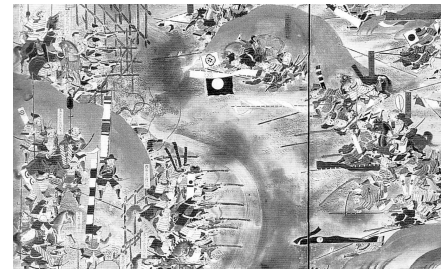
《共通点》

人里はなれた山奥で、きびしい修行をする。貴族の間に広まる

安土・桃山時代の特色は何か



諸国の百姓が、刀、脇差、やり、鉄砲そのほか武具類を持つことは、固く禁じる。百姓が無用の道具を持っていたら、年貢を出ししほり、一揆をくわだて、大名によくないことをするように罰せられる。(略)



諸国の百姓が、刀、脇差、やり、鉄砲そのほか武具類を持つことは、固く禁じる。百姓が無用の道具を持っていたら、年貢を出ししほり、一揆をくわだて、大名によくないことをするように罰せられる。(略)

